

所在地：	栃木県宇都宮市清原工業団地23-9		
設立：	1985年11月		
ISO14001取得：	1997年6月	ISO14001最新更新：	2006年9月
主要製品：	半導体汎用品、PDP・BOFモジュール、表示機器		
環境コミュニケーション：	08年度		
情報開示：	1件	工場見学：	0名
		地域貢献活動：	4件
問合せ：	環境施設技術グループ 環境管理チーム		TEL: 028-667-6574



ごあいさつ

当事業場は、1985年設立以来、鬼怒川流域の恵まれた自然環境の中で、汎用半導体を中心に、開発・生産・販売活動に力を入れております。
 全ての従業員は、『環境保護活動と経営の共存』を事業活動の基本とし、常に環境に配慮したものづくりと地域住民とのコミュニケーションを重要視しながら、環境への積極的な取り組みを推進しております。
 また、当事業場は、クリーンファクトリー(CF)工場の認定も継続的に取得しており、引き続き当認定を取得し続けることを目標に、省エネ・省資源活動を積極的に実施しています。



環境責任者
竹内 一雄

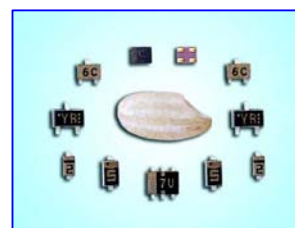
2008年度の環境重点テーマの取組み

目標	成果
エネルギー削減取組推進	環境パトロールを導入。『照明の適正化』や『空調の効率化』を全従業員で取組み、CO2排出目標を達成。今後も全員活動を積極的に展開予定。
省資源取組み推進 ・廃棄物排出量：前年比3%、 ・水使用量の削減：前年2.5%	リユース化の推進に努め目標を達成。
化学物質 ・PRTR管理物質の排出・移動量：前年比1%削減	製造工程の生産条件最適化に伴う使用量削減に取組み目標を達成。

製品・環境配慮ポイントの紹介

半導体事業

徹底的に商品の高性能・高信頼性化に挑戦し続けると共に、超小型・薄型・複合化等、多彩なパッケージ開発と、デバイス拡散プロセス・リードフレーム・表面処理など内製化による一貫生産体制を駆使し、且つ、CO2削減・廃棄物削減等を考慮した設備・工程でお客様のニーズに応じた製品づくりを進めています。



面実装トランジスタ・ダイオード

表示機器事業

商業店舗向けLED表示器を中心とした様々な用途の表示機器の開発・生産・販売を行なっています。表示素子には、屋外の直射日光下でも鮮明な表示を実現する超高輝度LEDを採用し、且つ商品の低消費電力化、小型化に努めています。



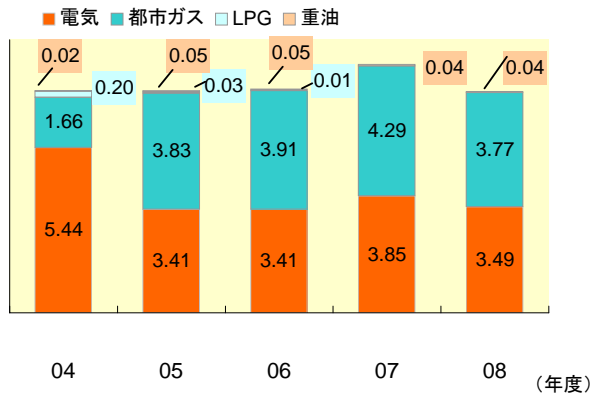
商業店舗向けLED表示器

環境パフォーマンスデータ

グラフ表示年 08:2008年4月1日～2009年3月31日

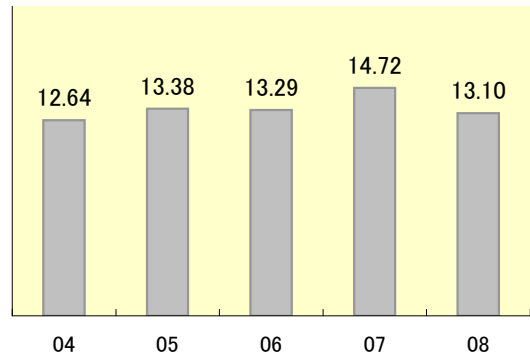
エネルギー使用量

単位:千kl



CO2排出量

単位:千t



自然エネルギー使用量

08年度

(年度)



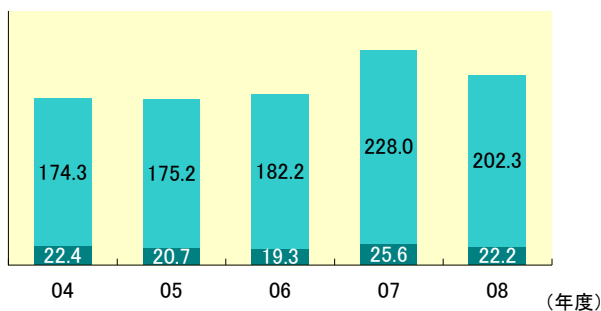
算出基準について

電気事業連合会「電気事業における環境行動計画」(2008年9月)に記載されている年度ごとの「使用端CO2排出原単位」を使用して計算。但し、エコアイデア宣言との整合性を保つため、2006年度は0.425kgCO2/kWh、2007年度以降は0.410kgCO2/kWhを固定して使用。

水の使用量

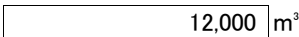
単位:千m³

■ 上水道 ■ 工業用水



循環的使用量

08年度



産業廃棄物・有価発生物

単位:千t、%

■ 最終処分量 ■ 発生量 ● リサイクル率

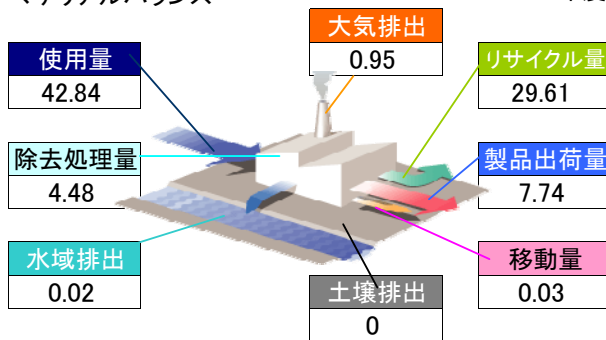


化学物質

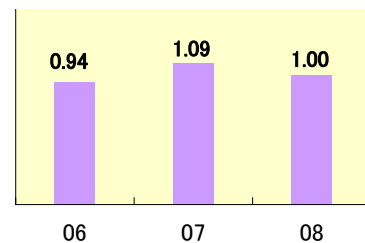
単位:t

マテリアルバランス

08年度



重点削減物質 排出・移動量



環境パフォーマンスデータの特記事項

PSCDD宇都宮清原事業場では、クリーンファクトリー工場の認定を、2008年度に取得しております。また、従業員による環境パトロールを定期的を実施しており、従業員全員の環境意識の向上を図っています。
■環境パトロール2008年度実績：2回 ⇒ 事業場内の照明の間引きを実施しています。

環境法令等の順法状況 08年度

<大気汚染物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
SOx	Nm ³ /h	コージェネ	8.0	7.2	0.33	0.34	2回/年
		ボイラー	8.0	7.2	0.01	0.02	2回/年
NOx	ppm	コージェネ	600	540	440.0	480.0	2回/年
		ボイラー	600	540	45.0	51.0	2回/年
ばいじん	g/Nm ³	コージェネ	0.05	0.045	0.004	0.006	2回/年
		ボイラー	0.05	0.045	0.001	0.001	2回/年

<水質汚濁物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	工場排水	120	16	4.6	7.6	1回/月
BOD	mg/l	工場排水	120	17	2.6	7.3	1回/月
窒素	mg/l	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
リン	mg/l	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

<騒音・振動>

	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 敷地境界	70	70	58.0	61.9	2回/年
		夜 敷地境界	60	60	56.0	59.7	2回/年
振動	dB	昼 敷地境界	65	65	42.0	57.5	2回/年
		夜 敷地境界	60	60	43.0	56.4	2回/年

法令規制値：法または条例および協定の規制する値

N/A：法令規制対象外の項目

法令規制値超過について

報告すべき事項はございません。

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
報告すべき事項はございません。	

環境方針

パナソニック セミコンダクターディスクリートデバイス(株)グループ
環境方針

パナソニック セミコンダクターディスクリートデバイス株式会社 本社、亀岡事業場、宇都宮清原事業場及び関連会社のパナソニック セミコンダクターディスクリートデバイス 熊本株式会社は地球環境保護が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、積極的に環境改善を進めることを基本理念とする。

当グループは半導体デバイス、電子関連部品及びマグネトロンなどの電子機器用キーデバイスの設計・開発、製造、販売事業場である事を踏まえ、以下の具体的な環境方針を設定し、事業活動に関わる全従業員によって環境保護活動を力強く推進する。

1. 当グループの活動、製品及びサービスに係わる環境側面を認識し、ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを効果的に運用、実践し、環境汚染の予防及び継続的改善に取り組む。
2. 環境関連法規、協定及び受け入れを決めた利害関係者の要求事項を順守する。
3. 環境保護活動の重点取組み事項。
 - 1) 地球温暖化防止活動の推進
 - ・ 製造事業場、非製造事業場のエネルギー削減
 - 2) 省資源及び廃棄物ゼロエミッション維持
 - 3) 生産用化学物質の管理強化及び環境への排出削減
 - 4) 製品環境負荷物質の維持管理
4. 上記方針遂行のため、具体的な環境目的、環境目標を設定し、環境管理計画に沿った活動を展開すると共に、定期的に見直しを実施する。
5. 当方針は全従業員に周知徹底するとともに、一般の人々にも開示する。

制 定 2009年 4月 1日

パナソニック セミコンダクターディスクリートデバイス株式会社
事業経営者

石黒 永彦

環境負荷削減の取り組み事例

化学物質削減の取り組み

- ◆生産方法の見直しによるソルダーレジスト利用率向上取り組み(使用量、排出量削減)
- ◆取り組み概要

<利用率低下の要因>

- 印刷マスク上に回収できない樹脂が残る
～マスク上に滞留した樹脂は、品質の悪影響が懸念される為、使用不可
- 使用しない樹脂が発生(廃棄)
～使用量が不安定であるため



<利用率向上のための施策>

- 樹脂回収方法の改善
～マスク上に滞留して使用不可となる樹脂の回収率をUPし、印刷に用いる
- ロット毎に使用する樹脂量の見極め
～印刷に必要な樹脂量の最適化

◆取り組み内容

- ①ウイングスクレップによる樹脂回収率UP
- ②印刷性向上により、ロット毎に必要な樹脂量の安定化
- ③マスク上に滞留する樹脂を減らすべく、土手を設置

◆取り組み効果

本取り組みにより、樹脂材料の使用量と排出量を削減することができた。

環境コミュニケーション事例

地域貢献活動1

■宇都宮地区パナソニックグループの社員と家族約550人により、宇都宮環状道路全域で清掃活動を行いました。(2008.10.4)



地域貢献活動3

■清原工業団地周辺の清掃を実施しました。(2008年5月・10月、2009年2月)



地域貢献活動2

■地域の方に参加戴いて、アルミニウム製空き缶の回収やフリーマーケットなどを実施しました。(2008年10月)



地域貢献活動4

■グリーンボランティア活動
宇都宮地区の各事業部からボランティアを募って、植樹と下草刈を実施しました。(2008年5月)



緊急事態への準備と対応

訓練内容

地球環境に対する付加高い設備・物質に対し、環境側面抽出・登録し、各設備ごとの緊急事態行動手順書を作成し、設備周辺に貼付し、それに基づいて緊急事態訓練を年一回実施しています。物質に関しては、取扱い手順書を作成し、年一回専門教育を実施しています。

